

## 日光地域まちづくり懇話会 “にっこう茶論”

日 時：令和元年 6 月 23 日（日）14:00～

場 所：日光庁舎

テーマ：日光地域の観光対策

次 第：1 開会

2 日光市の歌（斉唱）

3 市長挨拶

4 意見交換

5 その他

6 閉会

### 《意見交換内容》

参加者 1～2 ページの渋滞対策駐車場の整備ということなのですが、過日のまとめの事前の話し合いで、私のほうは、これに対するアプローチの仕方が2つあるかなと思っております。1つがハード面で、もう1つがソフト面であるということで、私はハード面のことについて、ソフトに関しましては、別の委員さんが伺うということで調整しております。

交通渋滞、駐車場整備の問題なのですが、これは我々日光市民にとりましては、数十年来の大きな問題でございます。市や県、行政トップのいろいろな調査や試験等があるのですが、一向に具体的な改善といえますか、その姿が見えないのです。以前の渋滞はハイシーズンや土日とか、そういうところに固まっていたのですが、最近の渋滞というのは恒常的、あるいは常態化してしまっていると言いますか、そういう状態が見られるのです。そういう点を踏まえすと、渋滞対策で、その原因は何なのだろうということになるのですが、極端に言えばその原因はただ1つかなと。

地域全体の駐車場のキャパシティがあまりにも小さい、様々なものもあるかと思うのですが、それが第一なのかなと思っております。この地域において、駐車場の収容力を増大させなくてはいけない、これがまず第一だと思うのです。ただ、これを増大させるときに注意しなくてはいけないことがいくつかあるのかなと思っております。過日の懇話会の委員の方からも色々出ていましたが、1つは駐車場の整備をするときに、選択と集中といいますか、小さなものをちょこちょこ造っても仕方がない。例えば、日光の門前町でまちづくりをやっているわけですが、まちづくりの中に小さな駐車場がぼこぼこあっても、これはどうしようもない、まちづくりという観点からすると、非常に問題になってしまうわけです。思い切って選択と集中というのが、1つになります。

それから、市とか県で臨時的なものを設けたりするのですが、それではなくて、恒久的なものを整備していただけないかなというのが1つになります。

それからもう1つが、利用者を地域に誘導できるという観点も大切なのかなと。あまりにも離れたところに造っても、それが地域に誘導できないというのでは、非常に問題が起きてしまうということだと思うのです。選択と集中、それから恒久的なもの、それから地域に誘導できるもの、そういう観点から整備できるのかなと思っております。

委員の皆さんから出たものが4つあるのですが、具体的な提案としては1つが、大谷川の右岸、七里地区の河川敷を利用した駐車場の整備です。ただ、今から言う4つは、かなり長短ありますが、まず

それが1つです。

それから2つ目が、大谷川の左岸、これは昨年やられましたけれども、萩垣面の日光小学校のところの河川敷を利用した駐車場の整備。ただこれも、いろいろ長所と短所といいますか、問題がいろいろあるのかなと思っております。

それからもう1つが、安川町の市営の第2・第3駐車場の駐車能力の大幅増強というのが3つ目です。

もう1つが、上鉢石町、中鉢石町の裏側には、非常に民有の空き地が増えておりまして、かなり広大なところになっております。その駐車場の整備がどうなのかなというところで、具体的なところとしては、ご検討いただけないかなと、委員の皆様からあがっております。ただ、その中で、大切なことは、駐車場を整備するのですけれども、それともう1つは地域を活性化させなければいけない。その1つの方策としては、他の委員さんから出ております、例えば市内の飲食店とか物産店とか、そういうものとのコラボレーションといいますか、ソフト面になってしまうのですが、そういう面も考えて整備できれば、より1つの交通渋滞とか、そういうものの解決策になるのではないかなということで、以上4つの具体的なもので、市のお考えをいただければと思っております。

**建設部長** 駐車場整備と渋滞対策についてお答えをいたします。まず、駐車場のキャパシティが足りないという件につきましては、ご指摘のとおりでございます。渋滞の原因としましては、神橋交差点部分に車両が一極集中することと、駐車場のキャパシティが足りないために、渋滞が起きている状況です。市といたしましては、交通が1箇所集中しないように、車両を市街地に入る手前で大谷川の河川敷に開設した臨時駐車場に誘導し、市街地交通の流入を抑制しているところです。駐車場の容量につきましても、先程ご指摘があったように、小規模な面積だと収容しきれませんので、大谷川の河川敷、日光小学校の校庭、日光土木事務所の駐車場、日光砂防事務所の駐車場、それでも対応できなかった場合は、日光霧降スケートセンターの駐車場も使わせていただいているところです。平成28年度からパークアンドバスライドを実施したところでありますが、去年のゴールデンウィークの数字で申し上げますと、ゴールデンウィーク9日間で3,729台の駐車実績がありました。今年は、事業費の課題もありましたので、事業内容を見直し、先程申し上げた場所で臨時駐車場の開設を行い、去年より1日少ない8日間の実施で6,609台と、約3,000台多い実績をあげたところです。事業費につきましても、バスを運行しなかったことで、300万円くらいの事業費削減が図れております。

ご意見いただきました駐車場の建設につきましては、地理的、地形的な関係で、なかなか大きな駐車場の整備は難しいところでございます。また、合併以前から景観団体というかたちで、国に登録を行い、景観条例を制定して、東町・西町地区を景観計画重点区域に指定しております。この区域は、景観を保存すべき地域、また、門前町として調和のとれた景観形成を行う地区として、地域の皆様の協力の下、建物の修景や道路・公園等の周辺整備を行っているところです。そのようなことを含めまして、新たに土地を求めて駐車場を整備することは困難な状況です。また、既存施設の有効活用や空いている公共用地の利用など、ストック効果を目指すもので、今使える土地を使って実施しているのが、日光地域渋滞対策事業でございます。

ご質問の1点目、七里地区の大谷川河川敷における駐車場整備でございますけれども、これにつきましては、昨年も同じような提案をいただきまして、市のほうで課題整理をさせていただきました。その中で、一番の課題が、七里地区が市街地からある程度の距離があることから、駐車場整備をした場合の二社

一寺なり、日光駅なり、市街地なりと移動手段の検討が必要になることであります。駐車場利用者に対して、バスまたは他の方法を考えなければなりません。現段階で、その移動手段について、課題整理ができない状況です。

2点目の霧降大橋から上流の左岸側駐車場の整備ですが、今年度は、日光砂防事務所からの協力をいただき、5面ほど臨時駐車場の整備をさせていただきました。現状の課題といたしましては、4カ所の堰堤の高低差が大きいこともあり、堰堤を乗り越えて利用する際の安全確保について検討を行っております。その関係もあって、今年度は、一方通行というかたちで、上流側に入口、下流側に出口を設置しています。また、ガードマンも配置しております。さらに堰堤前後のスロープの勾配がきつく、車が発進する際にタイヤで砂利を洗掘してしまうため、養生マットを敷いて対応させていただいた状態であり、駐車場の機能強化としての課題整理も必要であります。

3点目の安川町市営駐車場の、第2・第3駐車場の駐車能力の大幅増強についてであります。過去に検討した第1駐車場の多層化についてお話をさせていただきます。2年ほど前に地域の自治会代表者の方々、及び二社一寺から第1駐車場の多層化の要望をいただいております。第一駐車場は交番があるところの駐車場であります。多層化した場合の構造と、駐車場から表参道に行くための通路の建設について検討させていただきました。しかし、第1駐車場は、自然公園法による建築物の高さの制限と仕様についていくつかの基準があり、建物の高さが13mまでしか建てられないことから、十分な駐車容量が確保できない結果となりました。また、表参道までの通路の確保についても同様であります。

4点目の上鉢石町、中鉢石町の後側の空地利用の件ですが、現地を確認させていただき、利用が可能であれば、akippaという空気を駐車場として時間貸しできるアプリ登録等もありますので、どういう利用ができるかも含めて、今後、地元の方の声を聞きながら調査のほうに入っていきたいと思っております。以上でございます。

**副市長** 今、ハード面でのお話をさせていただいて、地域活性化のほうも大切ということで、例えば飲食店とのコラボレーションということなのでしょうけれど、やはり駐車場が不足していることは、本当に昔からの課題です。市としても、左岸側の整備というものもできたこともあって、駐車場の台数は大きく確保できたのですけれども、そうは言いながら、やはり、まち中に近い飲食店などとコラボレーションを図る意味でも、より神橋や二社一寺付近に近いところに、少しでも駐車場を確保しなくてはいけないところで、のどから手が出るほど欲しいところです。その辺は先程、小さいところにあまり手を付けても意味がないということもあったのですが、本当に藁にもすがらる思いで、小さな民間のスペースがあっても、そこを少しでも活用できないかというところで、akippaという民間の小さな敷地、また公共の小さな敷地、そういうところもできる限り利用してこうというスタンスでもあります。対極的なビジョンと計画というものまで、きちんと組み立ててやっているわけではないのですけれども、そこは対処療法的とはいいながらできる限りのことはやっていこうというところで、そういう意味ではやはり商店とかの協力も得ていかなければできないと捉えておりますので、ご協力をお願いしたいと思っております。

**参加者** 今年、左岸の臨時駐車場が、学校の校庭とか栃木県土木事務所を利用して、500台ぐらい置けたというお話は伺っておりますが、それは無料駐車場ですよね。非常に日光は優しいなと私は思うのです

けれども、二社一寺の駐車場ですら料金をいただいているので、日光市としても何か稼げること、お金がないのではなくて、何だかやさしい方法ではないでしょうか。例えば、二社一寺の料金くらいで、有料化にさせていただくという方法は考えていないでしょうか。

**建設部長** 今回、臨時駐車場として開設させていただいた河川敷は、5面で246台です。まず、大原則として、駐車料金としてお金を取るためには、駐車場施行令に基づく整備が必要ですが、河川敷であるため、河川法により難しい状況です。だいや川公園など、公園と一体となった駐車場整備については、河川占用の理由により協議が進められますが、料金徴収を前提とした駐車場単体の整備となると難しい現状です。この件については、何度か河川管理者と協議を行いましたが、課題が多いことから、今年度は、河川敷を一時使用というかたちで、臨時駐車場を開設しております。料金徴収については当初から考えていて、日光土木事務所、日光砂防事務所とも協議させていただきました。しかし、公共施設として条例等で管理している施設であることから、こちらにも課題が多い状況です。これらのことから、駐車料金ではなく別の形でお金をいただくことはできないものかと、今、検討をしているところです。

**参加者** わかりました。駐車料ということではなくても、整備費とか清掃費、ガードマンを雇ったり、それからゴミとかを置いていかれたときの清掃というかたちで、いただくということは可能ではないのですか。私がいろいろな地区に行ってみたときには、学校の校庭で、海水浴なんかのシーズンには、料金をいただいているのです。それはPTA関係のほうで使っていただくということをしているので、そういう別な意味を付けた上でいただくということですか。考えてくれているとのことでもわかりましたけれども、何とかそれができれば、整備費のお金とかガードマンの費用とかに充てることができるのではないかなと。全部、県や市の持ち出しではなくて、そういう費用を少し補っていただければと考えたものですかから、この質問をしました。ありがとうございました。

**副市長** 市としても助かるご提言で、その辺も勉強させていただきたいと思います。

**参加者** 先程の安川町の第一駐車場の件は、分かっているのですけれども、私は第二、第三駐車場のことを伺ったので、そちらについてお願いします。それから駐車場の料金についてなのですが、例えば七里に設けたとして送迎のバスとか。以前のアーデルのところのバスは無料でしたよね。バスのところで料金をいただいたらどうかなということも含まれているのですけれども、そのところよろしく願いいたします。

**建設部長** 日光霧降スケートセンター駐車場を活用したパークアンドバスライドを実施しているときに、事業内容の見直の中で、シャトルバスの運行を路線バスや市営バスで代替できないか東武バスへ協議を行った経緯があります。しかし、路線バスとしての法的な課題や採算性などにより、実現は難しい状況です。

また、市営バスについても検討を行いましたが、ピーク時における利用者への対応など課題が整理できない状況です。七里地区の河川敷駐車場の活用については、多くの方からご意見をいただいておりますので、今、担当課のほうで研究しているところです。

**財務部長** 安川町の駐車場の話で、総合会館の駐車場に関しましては、現在、市内に3つある文化会館等の施設を、今後日光市としてどうするのかという検討を、今、行っているところです。その中で、日光総合会館につきましては、自治会長会と地元の市議員の連名で、駐車場の多層化ですとか、大人数集まれるホールですとか、そういったご要望を受けております。そういったこともありまして、あそこをどうするか検討する中で、仮に総合会館を今後なくしたときに、跡地をどんな利用ができるかということ、今、まさに検討しているところです。多層化の話もご要望いただいておりますので、そういったことも含めて、現在、地元の団体から代表に出席いただいて、専門部会というかたちで会議を進めているところです。そういったところで可能性を探りながら、どういったことができるのか、今、まさに検討しているところですので、この場で具体的にあちらをどうするかというのは、現時点でお答えできないのですが、前に進めるかたちで、今、検討を進めているところということです。

**副市長** 渋滞対策、観光の駐車場の整備に関することにつきましては、一旦よろしいでしょうか。また同じテーマでフィードバックさせていただいても結構です。次の項目は、観光客の受け入れ態勢に関することで、4名の方からご意見いただいているので、お願いいたします。

**参加者** 霧降に関しては、別の委員さんにお任せいたしまして、私はいろは坂の上の奥日光に関する件です。そもそも、観光と漠然的に言っても、来訪者はどういうニーズを持っているのか、我々は把握ができていないという反省があるのです。日本国内の方、あるいは外国、ヨーロッパの方とアジアの方では、全然志向が違います。こういったものを我々は本当に理解していない、そして、年代による好みや志向についても、良くわかっていないのです。この辺を大いに反省して、今後進めていかなければならないかなと思うのです。それに関して、いろいろ観光のほうから情報をいただければ、我々は前向きに取り組んでいきたいと思っています。

また、観光の情報で、最も旬な、今最もいいというのが、全ての方に喜ばれると思うのですが、その情報に我々は疎いのです。例えば、1ヶ月前の5月23日に小学生の案内で、半月山に登ったのです。そのときに、ヤシオツツジが咲いていたのです。我々は絶句しました。今頃こんなに咲いている。確かに、気候の具合でずれたのかもしれないけれども、地元にて知らなかったのです。こういうものを何でもっと察知しておかなかったのかなと、後で悔しい思いをしますが、この辺の情報を県立博物館あたりから、小まめに受ければいいのかもかもしれませんが、市の方からアドバイスみたいなものがあるシステムがあれば、我々は心強いかなと思います。

もう1つは、いい天気のとけばかりではありません。やはり奥日光はロケーションが売り物ですから、天気が良くて、この添付されている東武さんが出した素晴らしいファイルのような日が、365日あればいいのですが、なかなかそうはいかない。やはり天気が悪い、寒い、辛い、クレームを受けてしまうのが実情です。これをいくらか払拭するために、我々がこの辺のいろいろなエピソードなり、そういったものを来訪者に伝えて、その心を和らげるというか、いいものに向けていく努力もしなくてはならないのかなと思っております。ただ、伝え方が下手なのです。この辺は、後ほどお話があるかと思うのですが、その辺について伺いたいと思います。

質問したいことは交通関係に絞っていますが、10連休のとき奥日光は快適でした。門前がバリアになって、あまり車が来なかったのです。それほど渋滞することはありませんでした。いろは坂も、我々自治

会が6年前から言っている完全な一方通行が、10月1日から実現しそうです。ですから、交通問題はかなり善処したかなというふうに我々は見ていて、問題はないのですが、むしろ市内、まち中にある廃屋が非常に目立っているのです。

この間の打ち合わせでは出なかったのですが、中心部においては、2つの大きな宿泊施設の廃屋があります。それから歌が浜地区にも1軒、これは森林管理署が持っているところに建っているのですが、これも酷いのです。そして湯元にもあります。これが観光地としての恥部というか、非常に気になる場所です。ただ、大きな施設は、なかなか空き家対策に引っ掛らないのです。1軒、2軒の空き家というものを、全国的には空き家対策しているようではありますが、市では大きな施設は、それに該当しないのかもしれない。この辺をどういうふうに考えるか、お答えいただきたいと思います。

それから、奥日光は住民が少なくなっている事実があるのです。どんどん減っています。昔1,000人ほどいたのが、今は半分以下です。若い人が来れば一番いいのですが、奥日光の風土をしっかりと理解して、喜んで住んでくれるという方をなんとか呼びたいと思っているのですが、その辺は副市長が前にされていた婚活も、関わりはあるのかと思うのですが、何か案がありましたらお答えいただきたいと思います。歌にありましたけれども「私のおうちはスイツアランドよ。きれいな湖水の畔なのよ。」ああいうふうなイメージで、奥日光が活性化するといいなと思っています。

**観光経済部長** 4年前まで観光振興のほうにおりまして、こちらにはその時にお世話になった方がたくさんいらっしゃいまして、またよろしく願いいたします。4年間観光から遠ざかっていましたので、4年間経ちますと観光も大きく変わってしまっていて、いろいろな計画や、東京での情報発信、DMOということで、今、勉強させていただいているところなので、皆様が思うようなお答えができるかどうか難しいところもあるのですが、まず1点目は情報の発信というところで、地域でどういうふうに発信していくのかというところなのだと思います。

奥日光につきましては、なかなか情報の提供というのが、現地の事務所があるわけではありませんし、情報の収集としては、民間の方から情報をいただいて、それを観光協会が流していくので、旬な情報というのは伝わりにくいような状況です。栃木県の施設がありまして、そちらからの情報発信とかに頼らざるを得ない。あとは地元の事業者様に、定期的にメールで教えていただいたり、観光協会のHPでご紹介をしているのだと思います。国が、国立公園満喫プロジェクトというものをやっております、大規模な改修を湯元地区でも予定していますし、今後、中禅寺地区においても、若干入ってくるのかなと思っています。また市においても、手付かずの地域と言ってしまうと奥日光の人に大変申し訳ないのですが、奥日光の宣伝について、あまり手をつけていない分野だと、私は思っています。今もそれほどやっていないのではないかと考えているところです。今後、来年度以降にリッツカールトンが中禅寺湖畔にできますので、そういったところで新たな富裕層が入ってくる場所もあります。

そういった場所もありまして、情報をどういうふうに伝えていくか、上手に伝えていかないと、状況がわからなければお客さんも来ませんので、情報のデータ収集・伝達、そういったところに力を入れていきたいなと思っています。それがどういった方法なのかというのは、県の事務所に一番情報が集まりやすいのかなと思いますし、国立公園事務所等もありますので、そういったところと連携しながら、旬な情報をいただきながら、どういうふうに上手に発信していくかというところを、来年度以降の課題のかなと思っています。

ニーズが分からないと、おっしゃいましたけれども、基本的に奥日光というのは自然が第一のポイントなのだと思います。これは奥日光満喫プロジェクトの中でも、アンケートを取っておりまして、第1位は奥日光の自然です。これについては、どの年代についてもそういったことなのだと思います。私どもも奥日光を情報発信するときに、だいたいどの年代にということで、観光地ごとにやるのですが、F1層といって、女性25～35歳をいつも狙えと言っていますけど、その部分と奥日光というのは、大変難しいのです。あちらに平日お客さんを連れて行くのには、やはりシルバー世代、60歳以上の会社をリタイアした方が、いつも山歩きをするというところで狙い目でもあります。あるいは学校関係者や修学旅行生も、十分な観光客の対象に成り得るのだと思います。本当に小さなお子様から年寄りまで、幅広い層が奥日光に足を運べるのだなというところは思っております。この辺の宣伝の仕方というのは非常に難しく、キャンプ場もありますし、キャンプが好きな方もいます。幅広く宣伝していかなければいけないというふうに、私は思っています。F1層と観光地ではよく言いますが、それだけでは足りないところが奥日光の難しさなのだと思いますし、幅広くやっていかなければならないというのが、奥日光の自然をどういうふうに見せるかというポイントなのだと思います。情報の発信については、研究をさせていただきたいというのが大きなところですよ。

**企画総務部長** 私のほうから廃屋と言いますか、使われていないホテルについてお答えいたします。最近、鬼怒川あたりがテレビに出て目立っているかなと思うのですが、市のほうとしましては、今年1月に関係する部署を集めまして、崩落であったり、不審者が入ったりとか、そういったことで防犯的なものもありますので、そういった対策をするということで、庁内にプロジェクトチームのようなものをつくって対応しているところです。また、その中で、鬼怒川以外にそういったところもあるのだろうということで調査をしたところ、市内に20数箇所あるかと思えます。先程、おっしゃられたところなども、入っているかと思えます。

こういったところについて、市のほうで代執行というかたちで、最終的には取り壊しとか、そういう話になってくるかと思いますが、その際にはその所有者であったり、条件として景観的にも内容的にも取り壊さなくてはならない状況になっているかどうか、そういった調査がまず必要になります。この調査自体も費用がかなりかかるということと、代執行として国の補助もあるのですが、補助があったとしても、市のほうがそれを出せるかどうか、やはり財政的なものもありますので、まず市の取り掛かりとしては、そういった調査を行いたいと考えています。そういった調査を始めるにあたり、その費用についても、今度は県のほうにも要望というかたちで、そういった補助的なものもお願いしたいと思っておりますが、まずは市としては、そこから取り掛かりたいというふうに思っております。すぐにそれができるかというと、非常に時間がかかるとは思いますが、まずはその危ないところを防ぎながら、そういった調査をして、解決の方向に向かっていければというところで、今、進めているところです。

**副市長** ただ今の件なのですけれども、所有者の把握が難しいということもあったり、権利関係の複雑化ということで、市が直接関与できるかどうかということが、非常に難しいところです。仮にその辺が解決したとして、行政代執行のようなかたちで、国等から補助金をいただいて、そこに市が資金を投下することが、仮に可能な環境整備だったとしても、結局代執行で行ったということは、そこで投下をした資金を回収しなくてはならないため、果たしてそれが可能かどうかという問題が生じてくることになりま

す。その辺は当然そこに投下する資金として、市民の皆さんからお預かりした税金というものをどれだけ投入することができるのかという判断も、非常に難しいことになります。これは、その大規模な老朽施設の実態、取り巻く環境、着手の条件を十分に精査した上で、今後どのようにしていけるかというところの仕組みを今、検討会で議論しているということです。

それともう1つ、婚活というか、住んでいただけるような、魅力のある地域というところの話で言いますと、確かに中宮祠、奥日光、湯元のほうは、本当に自然美が豊かなところであります。日光という素材で言えば、自然美、人工美が両方ある、また和と洋の折衷という魅力も備えているところですから、そうした意味でのポテンシャルは非常に高いといえます。以前、中宮祠で婚活イベントをやらせてもらいました。これも交流から移住へというコンセプトを含め、出会いのきっかけづくりのようなものなのですけれども、そのときに、中禅寺湖の湖畔をクルージングさせてもらったり、美味しい洋食も食べさせてもらったり、ものすごく人気の高かったイベントでした。だから、あの場所の魅力の高さというのを、改めて感じたところであります。ただ、はたしてそれが直ぐに移住へ繋がられるかという難しさがあります。市はこの他にも、例えば観光の交流から移住の体験ツアーとか、そうした事業を実施したり、民間でやっている婚活イベントへの支援等も行っています。そのようなことも含め、魅力を高めて情報発信し、訪れてもらって、それから住んでもらえるようにという、移住への流れをつくれるよう努力しているところですので、ご協力をお願いしたいと思います。

**参加者** 先程、部長から手つかずのところと言われましたが、奥日光は季節格差がものすごくあります。冬をどうするか。今、盛り上がっているのは、満喫プロジェクトで華嚴の滝のライトアップができそうだということで、今後とも市のほうでもバックアップよろしく願います。それから、移住ということで、副市長からお話いただいたのですが、テレワークということで、家族を連れられた方が奥日光に住んで、テレワークするというのを上手く仕組めないのかなという気もするのです。今後ともいろいろ政策があると思いますが、その辺の知恵を貸していただければと思います。

**副市長** 今は、SNSのようなものを活用した仕事をされている方だとすると、確かに必ずしも都会にいたなくても仕事ができている例があります。現実に栗山地域に地域おこし協力隊として入ってくれた方がいるのですけれども、その人はやはり SNS を利用した企画や観光ツアーとかをされていて、栗山地域を愛して、定住しながら、そういった企画関係の仕事を今もやっていただいています。そのような仕事のバリエーションと言いますか、可能性があると思いますので、その点については、移住フェアですとかいろいろな場面で、できる限りの紹介やアピールをしていければと考えております。

**参加者** 霧降地区でペンションを経営していますけれども、霧降を元気にする会という事業者の会が霧降にあります。お手元にパンフレットをお渡ししましたが、これは霧降高原にムチュー！キャンペーンのパンフレットになります。それと、ここ5年、キリフリ谷の藝術祭というものをやっております。その2つのグループから代表させていただいて、今日こちらに参りました。いろいろご説明をする流れで、お手元に1枚リーフレットを用意させていただきました。霧降地区に関して、まとめていろいろお話をさせていただこうと思いますので、これに沿ってご説明をしたいと思います。

全般的なことだと思うのですが、つい最近も入込数が増えているけれども、宿泊が伸び悩んでい



るといような統計があったと思います。それから先程、お話にも出ましたように、人口が減っていると。観光業に関して、事業の担い手がなかなか増えてこない、続いてこない、現実としてあると思いますので、そういったものを踏まえてご説明をしながら、最後、霧降地区の取り組みについてもお話をしたいと思っています。宿泊が伸び悩んでいるというのは、日帰りの方が増えているということなのですけれども、1つは、例えば、北関東道とか圏央道が開通すると、私もペンションでもデータをとっているのですが、北関東道が開通すると茨城のお客さんが増えました。それから圏央道が開通すると、山梨とか静岡とか、神奈川県西部、厚木とか相模原とか、それから東京の東部、八王子とかのお客さんが、じわっと増えるのです。さらに特急が増えて、鉄道の利便性が向上すると、日帰りがしやすくなりますから、それで日帰りが増え、その分、宿泊が減るといようなことが起きているのだと思います。

特に、日帰りで盛んに動いているのは、団塊の世代です。そういう方が、盛んに日帰りで動かれていますので、おそらく交通渋滞の話も、常態化されているという話もありましたけれども、そういったところが恐らく背景としてあるのではないかというのは、追々に想像ができます。

伸び悩んだ宿泊をどうやって伸ばすかということは、1つはやはり体験化するとか、ガイドハイクとか、泊まっていたら経験するというような提案を、どんどんやるしかないのではないかと思います。少し先のことを考えると、団塊の世代が今、70歳に入ったところですから、あと10年すると、団塊の世代の動きは必ず止まります。

明らかな例が1つあって、登山人口が2009年に1,230万人でした。これは団塊の世代がリタイアして山歩きを始めて、空前の登山ブームが起こったときです。それがだんだん皆、体力が落ちてきて山歩きをしなくなって、2016年に半減し、650万人になっております。要は動けなくなると、止まるのです。だから今、団塊の世代が日帰りや宿泊も含めて観光で動いてくれている人たちが、あと10年して80歳を過ぎると、必ずこの動きは止まるのです。そのときに慌ててももう仕方がない、遅いと思います。だからそれに備えて、今から何をやるかということが、大事なのではないかなと思います。

1つの例として、スキー場が、若者のスキー離れというのが非常に激しく進んで、それを受けて、リクルートが声をかけて、皆さんご存知かもしれませんが、雪マジ！19という企画があったのです。これは19歳の方のリフト代を無料にするという企画です。最初は、なかなかスキー場はのってこなかったのですが、今はかなりのっています。かなりのスキー場がこれに加わっています。19歳で初めてスキーを体験してもらうことによって、その先のリピーターをつくるということを、スキー場は今、しきりにやっているのです。だから、こういうことをやはりやらないと、例え日光であっても、むしろ日光は団塊の世代に依存しているところが多いと思うので、10年経ったら激減するということが明らかなので、そういったことを踏まえて、何か考えなければいけないと思います。

先程、お話があったように、世代によって何を求めるかは違うと、国籍によっても違うと、まったくそのとおりだと思います。ペンションをやっている、ものすごく実感します。そういったものを踏まえて、何か政策が必要なのではないかと思えます。

1つ提案としては、私のところに観光統計宿泊調査というのが送られてきましたけれども、宿泊数調査というのは、宿泊数、団体とか個人とか、そういった項目はあるのですけれども、世代別の項目はないのですよ。例えば、10代～20代、次は30代～40代、50代～60代、それから70歳以上というふうに、世代別の項目を設けたら、世代別のどういう動向があるのかわかると思うのです。それから、リピーターがどのくらいいるのか、リピート率に関して項目がありません。リピーターがどのくらいいるのかと

いうことも、せつかく観光統計を取るのであれば、そういったものを一緒にとっていただいて、それを毎年にも動向を把握して、我々事業者にもフィードバックして、意識付けにさせていただければ、我々は非常に助かるなと思います。

それから先程も出た、若い人がいないという話ですけれども、私は縁があって千葉によく出かけるのですけれども、いすみ市というところは、人口が3万5,000人くらいの市だと思うのですが、人口の減少が止まったのです。ほんのわずかですけれども、人口が増えているのです。たぶん30代~40代くらいの人が増えているのです。日光は合併して10万人くらいだったのが、さらに1万人くらい減っているということだと思います。いすみ市に比べて、私は日光のほうが、文化的にも自然の面でも魅力の多いまちだと思っています。いすみ市に世界遺産があるわけでもないし、奥日光があるわけでもないで、そういったところで、どうして人口を増やすことができたのかと、非常に私は驚きを感じています。そういった意味で、今後未来を担う30代~40代くらいの人たちの意見を、行政としてしっかり聞く場を、もっとつくったほうがいいのではないかと感じております。それが2つ目の提案です。

最後にそういったことを含めて、霧降地区でどういう試みをしているかということ、霧降高原にムチュー！キャンペーンという、これは地元をPRするキャンペーンです。それからキリフリ谷の藝術祭というのは、地元にいる作家とか工房がたくさんあるので、そういった人たちが集まってアートのお祭りをやることによって、地域を活性化しようという動きです。詳細は、先程お渡ししたパンフレットを見ていただければ、中身は詳しくわかると思います。

藝術祭に関しては、今5年目なのですけれども、ちょうど今、6月の1カ月間でやっています。今年、去年あたりは35名~40名くらいの作家とか演奏家の人が関わって、活動してくれています。また、宮地さんのご主人が声を掛けてくださって始まった、ジャンルは違いますが自然ガイド連絡会という活動もやっています。その元気にする会と、藝術祭、ガイド連絡会も含めて共通しているのは、非常に若い人が関わってくれているということです。若い人が非常に活躍してくれていて、それにはあるルールみたいなものがあるのです。それをまとめてみました。

1つは、あれもこれもやろうというのではなくて、ワンテーマで集まります。今回はこれをやろうと、それに集中して皆でやろうという動きです。あれもこれもやろうということでは、なかなか人は集まらない。それから、少ない時間とマンパワーで動いていくのですが、そのためにはチームの作り方という点で、若い人に合わせたというか、いろいろな人が参加しやすいチームづくりというのをやらなければというのは、ここ数年で非常に感じているところで、まず1つはフラットなチームづくりです。強いトップが1人いて、上からトップダウンで何かやるというのでは動きません。だから、フラットな関係をつくって、階層的な構図をつくらなくて、皆で意見を出し合うということです。それから、むしろ若い人の発想をいかに生かすかということ、ベテランの人が意識するということです。本当の信頼関係というのは、部長だから偉いとか、課長だから偉いというのではないのです。上司だから偉いというのではなくて、業務命令だから聞いてはいるけれど、本当にその人を偉いと思っているかどうか、部下が思っているかどうかはわかりません。チームの中では、そういうことは一切通用しないので、本当の信頼関係がないと絶対回りません。そのためには、やはりヒューマンな本当の信頼関係を、どうやってつくるかが大事です。

後は、組織化しすぎない。立派な組織図ができた段階で満足してしまっていて、これで何かやったような気になっているというのは大間違いで、それよりも何をやるかということのほうが問題です。意外と若い

人は、こういうところに敏感です。ですから、そういったチームづくりというのを、ベテランの人が心掛けないとだめなのだなど、ここ 10 年ぐらいの活動の中で非常に感じているところであります。

**観光経済部長** 大変勉強になりました。ありがとうございました。日帰り客の増加もあって、宿泊客が増えてこないというのは課題だというのは、誰もが認識しているところです。一昨年は若干、日光東照宮の陽明門が新しくできたということや、東武特急リバティができたということで、宿泊客数も増加しましたし、入込客も増加いたしました。今年度、昨年度については、入込客は増加したけれども、残念ながら宿泊客は減ってしまったと。こういったことが課題なのだろうなど。インバウンドにしてもしかりです。国は 400% ぐらい伸びているのに、日光市は 150% くらいしか伸びていないのです。これはおっしゃるとおりだと思います。その辺が日光市の課題というところで、整理はさせていただいているところです。

行政への提案の中で、世代別の割合やリピーター率、本当に大事なところだと思います。今回この調査を行ったのは、おそらく栃木県が行った調査だと思います。こういったことについては県のほうに返しまして、次回以降そういったものも含めて取っていただいて、できれば地元にもそういった情報を下ろしていただきたいというお願いをしていきたいと思っておりますし、今後、市が取るものについては、こういったものも参考にさせていただいた中で、取るようにはしていきたいと思っております。

今現在、こういったものが観光客の皆様に興味を持たれているかということ、まさにガイドハイクといったものが、今、人気になっているというのは聞いております。そういったことで日光市でも、ガイド部会というのをつくっているのです。今一番多く活動していただいているガイド部会の皆さんに、いろいろなことをやっていただいています。お客さまを案内していただいて、そういった体験プランをつくっていただきながら、お客さまへ提供して、そういったものが今、徐々にではありますけれども人気を得ています。市としても、力を入れて応援しているところではございます。

若い世代の誘客ということで、雪マジ! 19 というのは、たぶんリクルートさんでやったということで、ゴルフなんかもやっているものもあります。当市もゴルフ場がたくさんありますので、そういったものに参加していただいて、ぜひ若い方がリピーターとなって来ていただければというふうに思っています。

そもそも首都圏にいらっしゃる若い方というのは、小学校のときに、修学旅行で 1 回は来ていらっしゃるということで、すでに土地勘といいますか、日光はこういうところなのだろうなど思いながら来ていただいているというのが、事実なのだと思います。色々なところで首都圏の方とお話すると、「昔、修学旅行で日光に行きました」というご意見をたくさん聞きます。「再度、この間行きましたけれども、変わっていませんね」と、色々なところでお話を聞いてきて、リピーターを確保していくことは重要なことで、色々なアンケートを取りますと、リピーターの方が結構多いのです。今後取ったものについては、事業所の皆様にお返しする必要があるのかなと思っておりますし、日光市では今後観光をやっていく上で、観光振興計画というのを作っています。その中は、やはりそういったデータを活用しながら作っていかなければならないと。今年、第二期の観光振興計画を策定する予定になっています。策定するにあたって、いろいろな観光事業者の皆様のご意見を聞きながら、新たな観光振興、これから日光の観光をどうしていくかというのを作っていくものだと思いますので、そういった中でまた調査をさせていただきながら、皆さんに情報を返しながらかやっていきたいと思っております。

それと、観光事業の担い手づくりということで、大変貴重なご意見ありがとうございます。若者を活かす環境づくりというのは、非常に大事なのだと思います。どの地域でもなかなか若い方がいないので、そ

ういった関係を活かすことができないというのもあります。これを活かすのも、行政の仕事なのかもしれませんが、一番近くにいる観光協会、今日、観光協会の職員の方もいらっしゃいますが、そういった観光協会の方と一体になってやっていただいて、できれば民民で一生懸命働いていただいて、そこで何が足りないのか、ものによって違ってくると思うのですけれども、その足りない部分を市がしていくのかなと。あくまでも市が誘導するというのではなくて、民民の間で頑張っていて、法的に何か問題がある、あるいは宣伝費について予算が足りないとか、そういったものでご相談いただいて、そこを市がなんらかのかたちで補えればいいのかというふうに思っていますし、後方支援的なところでやっていければと思っています。行政が引っ張ると、そこで終わってしまうという例が多いものですから、できれば民民の中で、そういった活動を頑張っていていただきながら、足りない部分をそこに市が入って行って、補完しながら大きくしていくと。

キリフリ谷の藝術祭は私が異動してから始まったということで、あまり覚えがなかったのですが、愛を叫ぶイベントがあったかなと思いながら聞いていました。民民で、今回霧降のほうでこれだけ皆さん頑張っているというのを初めて知りましたので、できればそういったことも、今後、協会の方とかと、改めてお話をさせていただければなと思っています。

**副市長** 観光客の受け入れ体制に関することについては、先程と同じように最後に時間があればお聞きするというので、次の項目の世界遺産に関することということで、お願いします。

**参加者** 質問の前に、日光市の歌の CD ですが、私がピアノを弾いているのを使っていてありがとうございました。とても感慨深かったです。

早速ですが、日光が世界遺産に登録されて、早 20 年という年月が経ってしまったのですが、ただのお祭り騒ぎとか世界遺産の看板だけで、この流れだと終わってしまいそうな感じがとてもします。やはりきちっと世界遺産センターなるものを、私は日光に欲しいなとずっと思っているのですが、なかなかその世界遺産センターができない。市長はハコモノが嫌いなそうなので、新しいものを造ってほしいとは言いませんが、今の旧日光庁舎の利用のされ方も、なかなか結論がでない。やはり二社一寺の世界遺産に行く前に、ちょうどいい場所ではないかなと思います。あそこに世界遺産センターをつくっていただいて、訪問してくださる方に、前もってそこでいろいろ勉強していただいてから、二社一寺に行っていくのが、観光客へのおもてなしなのではないのかなとずっと思っています。

あとは、地域の人たちも、登録されたけど世界遺産とは何だろうとか、もっともっと世界遺産について、せっかく地元の世界遺産があるので、どんどん勉強していきながら、また後世にこれを伝えていかないと、せっかく登録された意味がないと思います。今、石見金山とか平泉とかあの辺は、とても世界遺産に対して熱意のこもっている世界遺産センターをつくって、どんどん観光客や地元の人たちにアピールをしていますので、二社一寺を大切に、世界遺産を大切に地域として、そういう拠点となるものをつくっていただけないかなと思います。そういうお考えがあるのかどうか、お伺いしたいと思いました。以上です。

**教育次長** 以前、旧日光庁舎の活用ということでは、一度あそこに世界遺産のガイダンス施設を設置してはどうかという案があったかと思います。ただ、耐震化の問題や、いろいろなことがありまして、そこ

では活用ができないという結論に至りました。これをつくるとすれば、その当時の担当は文化財課で、特に観光目的ということではなく、その世界遺産を活用・周知するガイダンス施設という意味で、つくる方向性だったわけです。そこで旧日光庁舎が使えないということで、新たな施設を建設するということは、かなり大きな課題になってしまいますので、市内の市の施設とかを活用してできないかという検討は、一度行っております。

ただ、今の時点では、新たに建設する場所とか決め兼ねているところで話が止まりましたので、進んでいない状況です。今回このような提案をいただきまして、また改めて検討し始めたいかなと思います。今の世界遺産の周知という点では、市のHPとか、街歩きナビの中で見られるとか、ICTとかを活用したところではあるかなと思います。ただ、現地で実際に事前学習をするようなところはないものですから、検討したいと思います。ただ、つくる場所によっては、先程ご意見いただいています駐車場の問題とか、そういうこともありますので、かなり慎重に検討しないと、なかなか進まないかなというふうに感じています。以上です。

**副市長** 旧日光庁舎については、只今、教育次長から耐震補強や、例えば土砂災害警戒区域だとかそういったこともあり、もちろん躯体自体も相当弱くなっているということもあって、結果新庁舎のほうに建て替えという話になったところです。旧庁舎建物の利用については、日光庁舎の利活用検討委員会という中からもご意見もいただきました。

ただ、先程のような理由もあり、今すぐ耐震補強した上で、かなりのお金を投下して事業を展開することは非常に難しいという結論になりました。今後、それを利活用する余地がないのかということ、本当にお金がないので非常に難しいのですけれども、将来的に何らかの工夫をしたいということはありません。ただ、多きに観光客を呼び込むというのは、やはり危険性も伴う話なので、そうした利用の仕方というのは、今の段階では想定ができないということになっています。

現状の旧日光庁舎で言いますと、あのまま放置しておく、どんどん躯体が弱くなってしまいますので、そこは今、外壁等のお化粧直しと、景観上良くなかった前庭を整備して、あの一帯を観光客の方の休憩場所といいますか園地化整備を行います。そして、大名ホテルと言われるお城のような景観を十二分に生かした写真撮影のスポットにすべく、今、事業を進めております。今年度中に、その詳細設計を終えて、来年度に工事に着手し、完成する見込みです。

まち歩きの方たちのトイレが不足しているという課題もあります。この行政センターの前にも小さいトイレがあるのですが、そこだけでは足りないところもあるので、できればトイレも併せて、そこに拵えたいなという考えで進めております。ガイダンスセンターについては、私も以前に伺ったところだと、センターの中にジオラマのようなものをつくってというところまでの話だったので、さすがに施設上の規模とか、先程の駐車場もあるので、それを新たにという話になると難しいところも現実にあります。

市長は、ハコモノは嫌いだと言っているわけではなくて、今回までに3カ所でこの懇話会をやってきたのですけれど、市長講話の中で、これまで合併特例債という合併の有利な優遇措置があったものをフルに活用してきて、前の市長の段階でほぼ使いきっており、予定しているもの全て実施したらあと10億円くらいしか残らないのです。そうなると、財源上、振れる余地がなかなかないのです。これまでのガイダンスセンター自体の、建設計画の煮詰め具合が足らなかったということもあって、合併特例債とかを有効に使いながら建設しようというのが、その中に取り込めなかったというのが現実としてあります。

だからと言って国の補助金等の支援が全くないということではないため、計画の煮詰め具合によっては、検討の余地はあり得るかなと思っております。

それでは、次におもてなしに関することというところで、6名の方にご意見いただいているのですが、お願いします。

**参加者** 私が伝えたいのは、去年一年間この活動をさせていただいてきて、先輩方からたくさんいい意見も出ていますし、問題点も出ました。20年も30年も解決しないという駐車場問題、渋滞問題、観光地であるが故の問題もたくさんあります。あとは、私は80代の親と、0歳児の子供と自分たち中間世代と、多世代にわたって生活しているのですけれども、介護とか福祉の面でも心配事はあるし、子育て世代の悩みもわかっています。観光業に携わっているので観光のこともよくわかっています。統括して、私はこのまちが大好きなのです。皆さん、地域ごとに、とても素晴らしい考えだと思います。霧降の方が霧降のお祭りをやっている、中禅寺の方が奥日光のことをアピールしたい、二社一寺の方が世界遺産を広めたい、みんな1つ1つとったら素晴らしい地域だと思うし、どこにも負けない観光地だと思います。残念ながら発信の仕方が上手くないとか、情報が溢れることがないということで、私は個人レベルでやろうと考えていたことがあったのですが、日光市のアプリをつくりたいと思っています。

アプリというのは、スマートフォン1つあれば誰もが閲覧できます。有料と無料があるのですが、無料サイトのアプリを活用して、一番成功している観光地は川越市です。アプリの利点は、スマートフォンなので全文が英語にもできるし、日本語にもできます。そして、団体もグループ、会社や市民、全員が役に立てるのです。駐車場の空き情報もアプリが活用できるし、道路状況もリアルタイムで、今どこはどのくらい混んでいる、何分くらいかかるというのも分かるので、もちろん消防とか救急なんかの搬送にも役に立つと思いますし、市民が移動するにも、この道は混んでいるから回り道を試みようとか、そういうことにも使えると思います。駐車場の空き情報なんかもアップしていけるし、休日当番医とか、そういう観光の面だけでなく、全ての住民の不安やそういうことが、一括して解決できると思うのです。アップルのパソコン1台あれば、素人でも今はできるのです。

お金もかけようで、大きなものになればなるほど、確かに予算はかかるのですけれども、市のアプリにお店の宣伝を載せてあげるから、お店からお金をいただくとか、何らかの方法で、財政にだけ頼らなくても、お金を集める方法もあるのではないかなと思うのです。どうしてアプリを薦めたいかと言ったら、誰かが盛り上がっているというまちではなくて、みんなが知っている状態にしたいので、市を巻き込んだアプリづくりをしたいと思ったのです。例えば、個人レベルで東町のアプリをつくりましたと言ったら、西町や中禅寺は知らないということになってしまいます。派閥ではないけれど、そういうのは生みたくないのです。市の事業となったら、市が絡んでいるアプリとなったら、もっと自分たちの生活にも役に立つのだという意味で、みんなが参加してくれれば、より多くの情報も集まるので、市としてはアプリづくりみたいな計画はないのでしょうか。

**観光経済部長** 確か5年前、私がいるころにつくっています。日光まち歩きナビというもので、それは他言語もやっていますし、道路情報も具体的にはやる気になれば入るものだと思っております。また、災害対応にもなっていますので、修学旅行の先生方には、特にご推薦しています。そこには、避難場所だったり、そういったものも案内できるようなシステムも登録しております。既にやっていますし、他の地域

もたぶん行ったときに、ソフトバンクのシステムだと思ったのですが、日光街道アプリという、埼玉の方が一生懸命、日光の説明をしてくれるなどというアプリもありました。

アプリに関しては、日光市は6年前ぐらいから始まっています。参加者の方が知らないということは、当然その情報が、市民の方に行き渡っていないと思いますので、そこは反省して、どういうふうに広めるか検討します。

**参加者** 5年前につくっているということなのですが、そのときからもアプリは進化しているし、現に市民である私も、観光業に携わっている私も、駅前で観光客に毎日触れている私も、誰も知らないアプリだったらもったいないので、それをベースに、土台があるのであれば作りやすいと思いますので、市民を巻き込むくらいの情報収集をして、市として活用していただけたら、とってもありがたいと思います。

**観光経済部長** 反省して、それについては調整します。私も観光協会の役員になっていますので、そこは調整させていただきます。

**副市長** 時間も結構経っているので、最後に総合会館に関する事ということで、お願いします。

**参加者** こちらに関しましては、この懇話会の事前会議のときに、委員の方が、検討専門部会の会員になっていらっしゃるということでしたので、私はそちらに委ねましたので大丈夫です。

**副市長** では、おもてなしに関する事で、他に違った角度からご意見がある方お願いします。

**参加者** 我々が今発言したり、いろいろやっているのですが、どうしても受身的なものが中心になってしまうのです。そこで3ページに書かせてもらったのですが、攻めの観光ではないのですが、日光というのは、こういうことをやっているという攻めが欲しいなと思って書かせていただきました。

1つはバリアフリー観光と言いますか、バリアフリーマップを去年、施設の名前は忘れてしまったのですが、市と協力してつくったのです。例えば、日光という観光地は、こういうバリアフリー的なものもものすごく進んでいるとか、そういうふうなものが欲しいのかなと思って書かせてもらいました。それからもう1つは、日光の長期計画なんかでも、こういう産業があって、こういうことをやっているのですということは、市のほうで出しているのですが、例えばそれを融合して、6次産業ではないのですが、日光ゆばというものは、随分宣伝されていますが、例えば今市の農林業と、日光の観光とか商業と言いますか、そういうものの本当の融合みたいなものができないのかなと、今もってないのです。

ゆばは昔からあるのですが、今市でつくられたものが日光で商売になるとか、そういうふうなものを、ぜひ、いろいろな民間から知恵を出してもらって、市のほうが音頭を取ってやっていけばと。例えば、今市のニラではないのですが、それを料理して、こういうふうなものができて、それをお土産で売ります。本当の意味での6次産業化と言いますか、それをぜひ、市役所のほうで音頭をとって、あるいは商工会議所とかに提案していただいて、みんなの知恵を集めて、それを出すというふうなことを、お願いしたいと思っているのですが、その辺をよろしくお願いします。

**観光経済部長** バリアフリー観光のほうから、お話をさせていただきますと、確かに今回バリアフリー調査をさせていただきますと、JR 日光駅・東武日光駅から、東照宮までこんな点が足りていないですとか、できているとかというお話の中ですが、私が昔、藤原の地域再生をやっていた頃に、このようなことをやったことがあります。基本的に、受け入れ側がどこまでできるかというところもあります。いかに道路が整備されようが、二社一寺まで行けようが、ホテルがその対応ができていないとお客さんは来てくれません。いろいろなことをやったのですけれども、宿泊施設側がなかなか上手くいかないのかなというのが、当時は課題として捉えることができました。行政の範囲につきまして、ある程度できるものはできるのですけれども、民間のほうでどこまでやっていただけるかというのが課題になるのかなと。あるいはハンディがある方と一緒に風呂に入るといいうところも、課題として残りました。

バリアフリーというのは、伊勢志摩のほうが先進地というお話を聞いています。そういったことで、大きい観光地ではない小さな観光地というのは、非常にやりやすいのですけれども、日光・鬼怒川のように大きくなってしまいますと、なかなかそういう進め方というのは、とても難しいのかなと私個人的には思っております。ですが、これは非常に大事なことで、こういったものにお金がかかるのであれば、県のほうに融資制度とか特別につくってもらおうとか、今後考えていくようなのかなと個人的には思っています。

あと 6 次産業化につきましては、今回、事前にいただきまして、日光の 6 次産業化とは何かと思ったところがありまして、大笹牧場とか光徳牧場の牛乳を使って、そういった乳製品をつくることかなと思っていたところがあります。できれば、今回、観光と商工と農林が一緒になって、観光経済部というものになりました。リンドウが日光ブランドにも登録されていますが、栃木県内でリンドウの生産量が一番多いのは、日光市なのです。日本全体でいけば、岩手県や秋田が多いのです。なぜ、日光のリンドウがいいかというと、全部手摘みで、仕分けも手でやっているのです。製品的価値が非常に高いのです。1 本 350 円くらいで、東京都内で販売されているというところで、東京市場でも大変人気のものというふう聞いています。そういったところで、今日、昨日と SL でリンドウを配って、日光のリンドウを PR してもらっています。そういったところもあって、できれば市内でも季節になれば、お店の中にリンドウを飾ったり、そういったことを進めていきたいと個人的には思っているところです。新たなそのリンドウの流通先というところで、今は東京へ全部持っていったのですけれども、今度、旅館やホテルのほうへも、販路拡大を含めまして、来年度以降検討したいと思っております。

そういったことで、日光市農商工観連携・ビジネス創出促進事業というものもあります。若い人がそういった事業を開発していただいて、もっと費用があればもっとできるのかなとか、あるいは農業者の方と連携して、こういうのを始めたいとか、何かあれば市のほうにご相談いただければ、今ある制度の中で支援できるかもしれませんし、今後新たにそういったときにも必ず必要なのだと思います。来年、東京オリンピック・パラリンピックがあります。そういったところで日光をどうやって売っていくかと、そういったものが必要なのだと思います。そういったところの取り組みについても、まだ遅れている部分もありますので、ぜひ何かあれば、市のほうに相談していただければ、今なければ新たに制度をつくるとか、今ある制度を拡大していくとか、そういったところで取組んでいければなというふう思っております。以上です。

**副市長** 時間が経過しておりまして、言い足りないことが山ほどあると思いますが、最後に 1 つ、これ



はというものがありませんでしたらお願いします。

**参加者** 今回のことには関係ないのですが、前市長のときに高齢者と福祉の問題について質問したことがあって、それぞれの自治会で、送迎用に車両を使うときの保険を市で出してもらえませんかというお話をしたときに、前市長がそのくらいは出しますと言われたのですが、その後、一回もそれはないのです。やはり懇話会というのは、そうやって言われても実現はしないのかなと、毎年思っているのですが。

**市長** 自治会の送迎用の車両というのは何ですか。自治会で送迎用の車両を持っているのですか。

**参加者** 高齢者が多くなったので、自治会のいろいろな行事のときに、公民館まで送迎をしてあげるときに、車両に保険を掛けるのです。うちの自治会の場合は、2台登録して送迎保険というのを掛けているのです。自治会が負担をしているのですが、そのお金はたいしたことないのですけれども、市で面倒見てもらえないですかと話をした件なのです。昔の話になりますが、せっかくこの懇話会で出た話なので、実現していただくとありがたいなと思っただけなのです。

**副市長** 懇話会の中でいろいろ意見を言っていて、それを持ち帰り、それが実際に行政に反映されなくては意味がないでしょうというのがまず根本にあります。この記録というのは、集計して公表させていただいているため、行政側としてそれは聞いていないと言い訳はもちろんできませんし、早急に対処しなければいけないということも当然出てくるだろうと思います。今日、どうにも切迫した話までは伺っていないと認識していますけれども、他の地域でそういうことが出ないとも限りませんし、特に道路の対応もあつたりしますから、そういうものは受け止めさせていただいた上で、できるかできないかを早急に判断させていただきたいと思います。

今のお話については、地域振興部というところでこれから整理させてもらおうと思っております。仰っている理屈では、例えば自治会が専用の車両を購入して、その保険代という話でないと理解が難しいといえます。個人の車を利用しての運営ということだと、個人でそもそも保険に入っているのです、そこはどのようなふうになるのか整理しなくてはいけない話になります。そこが例えば、自治会が地縁団体という法人登録をしてあって、その法人の代表者の方が車両を購入して、それで自治会の仕組みの中で運営していくのであれば、そこはある意味、公の管理のテーブルに乗るのかなと思うのですが、個人車両の保険という場合は、上手く理解ができないのですが、その辺はどうなのでしょう。

**参加者** もちろん個人の車両ですが、その自治会の方たちの送迎に使うために、その送迎保険というのを、別に掛けているという車があるのです。登録車両に限るのですが、社会福祉協議会に送迎保険というのがあるのです。ずっと私は待っているのですけれども、全然実現されないなと思ったのでお聞きしました。

**市長** 私は今、話を聞いていて思ったのですが、自治会は日光市内に220くらいあります。行政と自治会との協働のまちづくりというのは、いろいろなパターンがあると思います。行政が直接、その保険代といって支払うかたちがいいのか。それともあくまで自治会は自治会として、自治会費を集めていろいろ

な活動をしており、自治会として完結をしているので、行政としては、いろいろなまちづくり提案制度とかメニューを用意させていただいて、行政とコラボレーションしてやっていくということがいいのか。その保険に関しては、その自治会の中で、自治活動をサポートするという意味で、補ってもらおうというのが一番すっきりすると思うのですが、それぞれいろいろな仕組みがある中で、市役所が特定の一自治会だけやるというわけにはいかないの、こういう仕組みで送迎をする保険を掛けるときには、補助制度をつくりましたと案内をして、それを使うところには全部一律というふうにするのが筋の話であって、そうしたほうがいいのか、その保険を掛けてやっている自治会というのがどこまであるのか、保険を掛けなくても送り迎えで事故があったときには、自己責任で保険の中で賄うとやっているところもあるかもしれませんから、そこはどのようなスタイルがいいのか、研究の余地はあるのかなと思います。

**参加者** わかりました。そのときと執行部の方も違うので、またお考えも違うと思いますが、一回そう言っていたので、そうかなと思っただけです。ありがとうございます。

**地域振興部長** 当時の懇話会でご提案に対して、その場で市長がそう発言したのと思いますが、担当部署として実際それが可能なのかなのかというところの検討があまり進まないまま、特に回答もせずということできてしまったのだと思います。

懇話会はずっと継続しているわけですが、平成30年度に実施したものについては、そのとき出席された委員等に、そのときの会議の場での発言に対して、市の回答した内容が、その場でできるのかできないのかということまではっきり申し上げていけば、それ以上、話は進まないかなと思います。会議の場で、「検討させていただきたい」とか、「具体的な提案としてできるかできないかわからないけれども、いい提案ですので、今後念頭において」など、回答の方向性の結果が見えないような言い方をしているものについては、後日、担当部署と調整の上で、「こういう方向にしたいと思います」とか、「こういう方向になりました」、もっと具体的なことで言えば、「来年度の予算に反映させます」とか、そこまでいけば一番いいのだと思いますけれども、そういったことも含めて、一覧にまとめたものを、昨年度の内容についてはお配りしていると思います。

一応、今年度の内容についても、どの程度詳しい内容でご回答できるかわかりませんが、そのような方向で対応したいと、担当部署としては考えています。

**副市長** ボランティア保険というものがあるのですが、それは今回おっしゃっていることにはフィットしない可能性が高いのです。ボランティア活動については、応援させていただくことになっているのですけれども、その辺は少し検討させていただければと思います。

**参加者** まちづくり推進委員会のほうを担当しております、今、土木事務所並びに都市計画課とともに、日光の東町まちづくりをやっております。先程話にありました、旧庁舎前の整備につきましても、今、推進委員会で検討しております、そろそろ結論を出してお届けにあがる予定でございますので、楽しみにお待ちしております。

もう1つは、世界遺産に関する事で先程お話が出たのですが、登録されて12月4日で丸20年になると思います。市としては、その20周年に関しまして、何か行動を起こすというか、発信するというか、

市のほうで何かお考えはあるのですか。それから登録名が、日光の社寺という登録名なのですが、その日光をどういうふうに捉えているのか、前に市長のお話の中に、今この地に生まれた者は日光市民だというお話がありまして、私は感動したのですが、今、この全体的な大きな日光になったところが日光の社寺なのか、それとも日光地域だけが背負っている日光の社寺なのか、イメージ的にどうも今の大きな日光市の中での日光の社寺という世界遺産のあり方が、少し浸透していないのではないかという感覚を持ってしまっているのです。一番身近に世界遺産の側にいますので、そうってしまうのかもしれないけれども、もう少し日光の社寺という大冠がある訳ですから、これをもっともって行政とともに生かして、発信をしていって、その世界遺産というものに対する認識を、もっと強くもっていただければいいかなと思います。とりあえずは20周年に関しまして、日光市側がどのような企画を持っているのか、それをお聞きしたいなと思います。

**観光経済部長** それでは世界遺産登録20周年につきまして、簡単にご説明を申し上げます。日光の社寺、世界遺産登録20周年ということで、実際11月にサミットを開催する予定です。内容につきましては、全国の世界遺産を保有している市町村で集まりがありまして、今回は第6回を日光市で開催するということになっております。その大きな冠が、世界遺産登録20周年記念サミットということで、11月に開催する予定です。この内容につきましては、分科会を二社一寺で行い、サミットを今市のニコニコ本陣で行います。その間に、鬼怒川などに行っていたり、あるいは日光の社寺を歩いていたたりというところで、広くPRさせていただきたいというふうに思っております。

この他に、それを盛り上げるために、栗山であったり鬼怒川であったりというところのイベント、これは冠がつきまして全て世界遺産登録20周年記念ということで付けさせていただいて、盛り上げようというふうに考えております。そうしたことで、特に旧日光だけというわけではなくて、今回につきましては、日光市全体という捉え方をしてPRのほうはさせていただきたいと思います。

ただ、特に中心は旧日光となりますので、そこは以前と変わらず中心的には旧日光になるのかなと思っています。また今回、観光庁が共催に入っていて、観光庁のほうから強く日光市全体で盛り上げてくれという意向もきています。市としては全体として捉えながらも、やはり真ん中には旧日光をおきながらということで、世界遺産サミットのほうは進めていきたいと思っていますし、それ以降につきましても、それだけで終わっては一過性のものになってしまうので、そういったものを活用しながら、誘客に努めていきたいなというふうには思っております。

**市長** 2時間に渡りまして、いろいろとご意見賜りまして誠にありがとうございました。講話の中でいろいろお伝えしているのですが、先程、市長はハコモノが嫌いだというお話がありました。

実は合併して15年間の間に合併特例債を使って、いろいろなハコモノを整備してきれいになりました。ほぼ400億円の使い道は決まっています。結果、皆さんと一緒に3割の120億円は返済して、残りの7割は国が面倒を見てくれると。ごみ焼却所は、すでに返済が始まっていますから、そう意味でこれからは財政的には非常に大変になるというのがあります。

私は、今年初めて、今年の予算編成に携わりましたが、この予算の中身はというときに、合併特例債を使いますという話が出てくるのです。その話が2年後からなくなります。特例債はあてにできないし、借金もできない、そうなる中で、今までずっと造って増えてきましたから、整理をしていか

なくてはならないというのが、その役回りの年の市長なのだと思います。前市長は整備をして造る市長、私はある程度、整理統合していかなければならない定めで、ずっと造り続けると20年後は破綻してしまいます。そこは立ち位置と今の時代と、ご理解いただきたいと思いますし、合併した自治体というのは全国にいっぱいあるのです。3,300ほどあった自治体が1,800ぐらいになりましたから、みんな先を考えて、この先大変だから一緒になってやっていこうと合併した自治体がいっぱいですから、どこの自治体も、順風満帆、悠々自適のところはないです。

日光市も同規模の自治体と比べると、100自治体あるとすると、大体財政力は60番目くらいです。ただ、人口減少とかいろいろなものを加味すると、今後油断をしていると100自治体中90番とかになりかねないから、今から頑張ろうと。今年の予算も、財政調整基金とかいろいろな蓄えを10億円ほど食い潰して、行政サービスをやっているのです。それを8年間やっていくと、8年後には予算が組めなくなるというのが、新聞記事の中身なのです。そうならないようにすることと、8年間で食い潰さないようにすること、同時に今度は税収を確保する、その検討委員会も、今年からたち上げて、専門家も交えて、観光業者や地元の皆さんにも入っていただいて、議論をスタートします。文化会館のほうも、あそこに多層化の駐車場をつくる、渋滞対策のために私は賛成です。ただし、造り方をどうするかというのは、よく中で考えて欲しいのです。先程言った貯金を現金で出して造ってしまっているのか、造るのは民間のお金を調達して、例えば、市役所はホールの部分だけお金を出すのか、そういうことも中でよく話をさせていただきたいと思います。

今、日光市がおかれている状況で、今の市民の皆様が幸せに暮らしていけるように、それから将来の市民の皆様につけを多く残さないように、これは今、携わっている我々の世代が、しっかりと議論をしてやっていくのが大切なのではないかなと思います。いろいろなまちづくりをしていく中で、このキリフリ谷の藝術祭など、私もフェイスブックでよく見させていただいていますが、行政が何かをやるのではなくて、民間の人たちがみんなで知恵を出して頑張っている。そこでこの部分が足りないから行政が手を付けろとか、手を貸せというのが、一番協働のまちづくりでいいパターンではないかと思います。

一番わかりやすい例を言うと、ウルトラマラソンです。市役所のスポーツ振興課が全部段取りをして、東京の業者が来て、事業をやって帰ります。市役所には何も残りません。片や、日光国立公園マウンテンランニング大会は、日光のいろいろな企業の人々が協賛して、市役所の若い人たちもボランティアで関わって、1,500人の方がみえて満喫して帰っていただきました。行政は何もしません。もう少し手助けしたいなと私は思うのですけれども、環境省や森林管理署とかに交渉していく中であっては、少しコースを延長したい、広げたいという思いもあるようですから、そのところは手伝いたいなと思っていますけれども、そういう民間のパワーが、最終的には日光をいい方向に持っていってくれるのだと思うのです。民間が頑張るべきこと、それから行政がやるべきこと、そこをしっかりと見分けながら、今後はまちづくりを皆さんと一緒に展開をしていきたいと思っています。そこには、ときには意見がぶつかることもあってもいいと思うのです。お互いにきちんと意見をぶつけ合って、そこで本当にどうしたらいいかというのを見つけていくというのが、本当の協働のまちづくりだと思います。今日は本当に貴重な意見をたくさんいただきまして、ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。